

おお大勝利

平成 21 年度山東サッカー部報第 13 号 (7 月 29 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Yリーグ城北戦 大勝

先日 7 月 25 日 (土)、山商グラウンドで Y リーグ第 8 節、山形城北戦が行われました。顧問今野は三者面談のため欠席し、もう一人の顧問遠藤に監督代行を頼みました。結果は・・・監督不在でも、というか、**監督不在だから**、と形容した方が良いのか、選手はのびのび戦ってくれ、8 得点という大勝。近年まれに見る大量得点となりました。後からその報を聞いた今野は、うれしさの中にやや複雑なものが入り混じる、そんな心境。「そんなことなら次も行かないかな」と口にしたものの、やはり行ってしまうのでしょうか。三者面談中、「そろそろ前半終了だな」「後半突入か」など、雑念が沸き起こって、気になって仕方なかったですから。

部報はどうやって作ろうか、と考えていたら、**山川保護者会長さんからレポートが届く**。部報用に作ってくださっていたわけではなく、不在の今野への報告用に使ってくださったものですが、素晴らしい内容ですので、転用させて頂きました。本当は (今野への慰めも含めて) 下記の 2 倍くらいの分量だったので削りましたが、さらに突っ込んだ戦術的分析などもあり、勉強になりました。ともかく、**この 13 号は山川会長号** ということでどうぞ。

梅雨の合間の晴れ間がのぞき蒸し暑く、温風が吹く中のキックオフ。顧問がいないこの試合。選手たちはいろいろなことが起こりうる状況に対してどう判断し、どう対応するかがとても楽しみな中で、こういうときに彼らに問われるのは「**自立と責任感**」などと勝手に思いながら試合開始のホイッスルを聞きました。

序盤、城北の前へ仕掛けてくるプレーの前に山東は、素早い寄せで対応。しかしながら、ボールが足につかず、クリアボールやマイボールにした直後のワンプレーでことごとく相手にボールを奪い返されてしまういやな展開。しかしながら、**松永・藤盛**の両FWが早い動きで相手陣内へ切れ込んでいく。「今日はこういう展開でしのぎながらワンチャンスをもものにする展開か」という流れの中、山東も落ち着きを取り戻した前半 25 分、左サイドで奪ったボールをボランチ**市村**が巧みなボールさばきで、アーリークロス気味にFW藤盛へ送る。相手DF二人に挟まれながらも上手に裏を取ってキーパーと 1 対 1。これを冷静に決めて 1-0。応援団席も思わず**ガッツポーズ**。そしてここからが怒涛のゴールラッシュ。5 分経ったかどうか、右CKからゴール前での競り合いを**孝祐**の頭をかすめたボールがFW松永の前へ。松永は相手DFをかわしてゴールへ突き刺し 2-0。応援団席は「よっしゃー」の声。自陣へ戻る選手に対して思わず「次の一点が大事だぞ」と声をかけてしまいました

(山商戦のように 2 点取って安心しないために。サッカーで 2 点差が最も危険な点差といわれているように・・・)。しかしその不安を見事に裏切る山東戦士たち。素早い寄せでボールを奪うのに連動しFWの動きだしにますますさえが出てくる。左サイドの**直弘**からのボールを藤盛が頭で流し背後にいる松永へわたり、きっちり決めて 3-0。応援団席には充実の笑みがこぼれる。そしてその笑みが消える間もなく、今度は左サイドの**嶋貴**からのアーリークロスをドンピシャでボランチ**田嶋**がきめて 4-0。で前半終了。応援団席では余裕の水分補給。

「自立と責任感」と勝手にテーマをつけてしまったリポーター。前半の内容はいい意味で期待を裏切ってくれました。全く大した奴らだ。ンンン。特にキャプテンの三澤の効果的な「声出し」に感心しながら後半へ突入。もちろん立ち上がりが重要なことは誰しもが承知のこと……。そしてここでも期待を裏切る。

後半5分。厳しいチェイス&チェックからボールを奪うと藤盛からのスルーパスが松永の前のスペースに。そのタイミングとボールのスピードがとてもスムーズに感じられ、まさにエレガンス！と思わず声が出てしまうホドでした。そして…一瞬のスピードの差で松永に勝負あり！1対1をきっちり決めて5-0。

それにしても今日の山東はどうした？！期待を裏切りっぱなしじゃないか！ここまでの展開、もしこの試合今野監督がいたらなんと言うだろう。試合後の部報では何と書くのであろうか？などと考えてしまう。それほどまでにスバラシイ…。全員の動きが有機的でしかも無駄がない。確かに細かいミスや技術力不足はあるがそれを感じさせない「**全員の無意識による有機的なムーヴィングサッカー**」そう表現してもよいだろう。先週の東海戦での内容がこんなにも早く結果に出るとは…。

城北の保護者からは1点返そうという声が出てくる。その期待にこたえてかスピードに乗った攻撃から1点を返す。まあこういう展開になるとよくあることでこの時間帯確かにというか、やっとな選手たちに「安心感」ができたのは言うまでもありません。ところが・・・ここからまたアクセルを踏み直す山東。右サイドでボールを持った**賢祐**が強烈に中へしかけていきゴール！6-1。本人の強い「意思」を感じさせるドリブルによる仕掛け。やはりサッカーはあらゆる状況の中での「観察力」と的確な「判断」と「決断力」、そして最終的には「意思」の力なのか。まさに人生の縮図ではないか！

ここまで来るといつ選手交代というところだろうが、今日は遠藤先生。ここは腕の見せ所？と思っていると・・・またしても松永。今日の松永の動きはとてもシンプルに感じる。豊富な運動量がある中でも直線と曲線がうまく使い分けられている（ここでは直線とは個の力、曲線とは連動という意味で）。シンプルで、早い。彼の良さが洗練された！そう感じた瞬間であった。1対1をキーパーがはじくがそのボールをキープしDF2人をおかわしゴール。7-1。劣勢になっているときでも「個」の力で状況を打開できる彼のまさに「個」の芸術によるシュート。

さてさて試合は**多田**が怪我でアウト。**裕也**がイン。DFでの競り合いに負けず、カバーリングにもなれ、三澤との連携が深まってきた今日この頃。CDFとして安心してみていられ、安定感ができました。

後半20分、**いよいよ遠藤先生が動きました**。嶋貫に代え**基嗣**を、松永に代え**大志**を。2人とも新チーム初登場。この二人がどうチームに入っていくか？というところが瞬時にあたまをよぎる。普通でいえば…いきなりはフィットしないよな…であろう。がここでも期待をウラギッテくれました。直後に入った**千葉**も含めて。

今日の流れ・・・「全員の無意識による有機的なムーヴィングサッカー」彼らもそれを見事に実践して見せてくれたのです。大志は高い位置からのディフェンスで自分のリズムを作り、ポストプレーによるサイドへの展開、裏への飛び出し、強い意志を持った1対1の勝負。基嗣は確実なボールキープから強い「意思」を感じさせるドリブル突破でサイドを崩し、攻守の切り替えの素早いプレーに徹し、疲労しているであろう選手を助けている。

後半35分その3人の連動から得点生まれる。左サイドで突破した基嗣からのセンタリングにニアで大志が飛び込んでいきDFがつけられた後ろのスペースに千葉が合わせ見事なゴール生まれる。8-1。それにしても千葉がよくつめてきていた。チャンス時にリスクチャレンジをしていくという千葉の強烈な意志の表れが得点に結びついたというところだろうか。交代選手が入っても「動き～有機的なムーヴィングサッカー」が継続されているではないか。全体の動きの内容が変わっても質が変わっていない。メンバーチェンジによる動きの内容の変化が自然の流れで何の違和感もない。ホントにスバラシイ！

終了間際1点を取られるがここまで来るともうご愛敬の失点か。そしてその後、得点の予感を最後まで残しての終了のホイッスル。8-2。残り10分が入った**メッシ**の体を張ったディフェンスなどは結構見ごたえがありました。

この結果・内容が決してブロックではないことを今後証明していかなければならないでしょう。

8月1日(土) 12:00 キックオフ VS 鶴岡東 天童第二

8月2日(日) 14:00 キックオフ VS 新庄東 天童第二

応援よろしくお願ひします。